浪深

人生の荒野に彷徨ふものよ
心の潮に泛しものよ
光の海はいつも輝いてゐる
澎湃として無限のあなた
法悦として永久のすがた
櫂は折れ帆は破れて
いづこにか辿りあてるなし
流れ〳〵てさだめなく
されは無限への憧憬
されは永遠への

12・25 本郷 高知堂製

文庫 14 121 5

東京帝國大學 新分類 第五號

[illegible]

[illegible]

[illegible]

俺は樹園の事を思へてから、既に六年を経ようとする。
人生は短いと云ふ、その短かさは幻の如く流れ去る。
明かな月日は遠雲なく落ちをしてしまつた、たんだれ
惜しまるる気もする。しかしこれが俺の宿命であるな
らば仕方がないとは云はれまい。どうせ勝負
にしろ、俺は一切を空だとして無為の月を送るとまあ
た、朝から晩まで何しようぞ俺ようあることはせ
ずとして居ない、でもこうすれば俺の如くいきな
道がないとするのが無為なる人生の仕方だ。

12、25 本郷 高知堂製